

潜水艦 伊 124 号 慰霊碑

昔から歴史の中で、戦争はとても悲惨だったと何度も何度も言われてきました。戦争の結末、それはいつも両国に多大なる損失を生み出しました：命が失われ、土地や家が失われ、そして国境が失われ、アイデンティティが失われ。

戦争で亡くなられた方々は、いつも国に仕え、己の任務を果たそうとしてきました。もうずっと何世紀もの間、数えきれないほどいくつもの戦争が、絶えず行われてきました。しかし、戦闘で亡くなった軍人も、民間人も同じ、個々の一人一人は、唯一無二の存在に変わりなく、私達はみんな絆で結ばれている人間同士です。

弱み強み、欠点、才能、思いやり、悲しみ、ユーモアなどそれらはすべての人間に共通するものです。

1942 年日本はオーストラリアに向けて前進してきました、その場所がまさにこの地ダーウィンです。

潜水艦伊 124 号は、オーストラリアの艦隊 HMAS デオレインによる魚雷を受け沈没しました。

80 名の隊員は水中爆雷によるか、もしくは水中で溺れ、即死されました。

もしかしたら、土壇場でもこれに耐え奇跡的に生き残った方もいたかもしれませんが、そんな方は、もがきながら最後まで必死に生きようとしたと思います、本当にとっても悲惨です。

その場所は私達が住んでいる場所からそんなに離れていないところにあります。75 年もの間、魂はずっとそこで眠っています。

私達北部準州豪日協会はトムルイス博士のこの、今この時宜にかなった企画、まさにこの適切なタイミングで、潜水艦隊員達のことを皆様知って頂き、追悼するにふさわしい方法に、賛同いたしました。

トム氏には、紆余曲折がありながら、計画を進める中ずっと、サポート、励ましやご助力をうけ、お陰でここまでくることができたことを感謝します。

名盤設置にあたっては、礎石（そせき）の設置、それからレセプションの補助金申請を承認して下さった、ノーザンテリトリー準州政府のテリトリーリメンバーズプロジェクト、それから Department of Parks and Wildlife そしてオーストラリア政府防衛省からの名盤の資金援助に感謝いたします。

この銘板がご遺族の方々にとって、いくらかの慰めになればと思います。そして、この銘板設置により、旧日本軍によるダーウィン空爆によって受けた苦しみ、未だに苦い辛い思いでとなって今でも記憶に残っている被害者、にとつての和解の証になることを祈っています。

私達豪日協会は、両国オーストラリアと日本にとって、平和、和解、友情関係がずっと続いていくことを心から願っています。私達は、1942 年 1 月 20 日に伊 124 号潜水艦で亡くなった 80 名の方をじっくりと、時間をかけて謹んでしのびます。

生きて、愛して、笑って、泣いて、夢に希望を抱いた男達。

国に仕え勤めを果たし、亡くなった男達。

皆さん、どうぞやすらかに眠りください。